

“株主総会に出席せぬ”

水俣病を告発する会 現地闘争に本腰

チツソの株主総会は二十九日大阪市で開かれるが、過去二回この総会に「一株株主」として乗り込んだ「熊本・水俣病を告発する会」（本田啓吉代表）はこのほど、今度の総会には出席しない方針を決めた。

これについて本田代表らは「株運動は、株主総会の席上、企業責任をめぐって直接会社幹部と対決するのがねらい。しかし、ことし五月の総会ではチツソが総会屋とガードマンを使って発言を封じ、直接対決の場を持てなかった。

今度も当然同じ動きに出てくるだろうから直接対決はとうていむりだ。しかもガードマンの暴力行為に患者を巻き込むわけにはいかない。新認定患者が補償問題をめぐって現地・水俣ですわり込み抗議を続けており、こちらの支援闘争に力を入れたい」と言っている。

また、公害告発手段としての一株運動についても、会員の間から「スケジュール行動のみを追求するのは運動の情性だ。目新しさと参加意識を安易に持てる一株運動は水俣病闘争を堕落させる」との

声が強く、今度の「参加見送り」に踏み切った。

昨年十一月とことし五月のチツソ定期株主総会には水俣病患者家族十九人と全国の告発する会が一株株主として参加。昨年十一月の総会では、当時の江頭豊・チツソ社長に壇上で「わび状」を読ませ一応の成果を取めた。しかし、五月総会では、総会屋に発言を封じられ、多数の会員がガードマンに暴行を受けている。一方、大阪や東京などの告発する会では予定通り総会に乗り込む方針で、患者の

一部も大阪・告発する会の旅費援助を受け総会に参加する。